

研究ノート

中学校2年生における実践

「この子のために」

Practice in a junior high school second year students

Kono-ko no tame ni

鈴木 憲*・荒木 紀幸**
Tsukasa Suzuki and Noriyuki Araki

キーワード：コールバーグ理論，モラルジレンマ教材，この子のために，1主題2時間授業

1 授業実践

第2学年B組 学習指導案

伊勢市立城田中学校
指導者 鈴木 憲

平成8年11月22日 金曜日 第2限 2年B組教室

I 主題名 「人間尊重の精神」や「生命尊重」等について考える

II 資料名 この子のために

III 指導にあたって

1 主題について

「人間尊重の精神」は、一人ひとりの人間が、人間の尊さを確信し、かけがえのない存在として無条件に認め合う精神のことを指している。それは、生命の尊重、人格の尊重、人権の確立、人間愛などの根底を貫く精神であり、道徳教育の中核をなすものである。

民主的社会は、一人ひとりの生命と人格、人権を尊重することをその基本に置いている。人格の尊重は、自己の人格だけではなく、他の人々の人格も尊重することであり、また権利の尊重は、自他の権利の主張を認めるとともに、互いに義務を果たすことを求めるものである。これらが尊重されるためには、その根底に相互に信頼し合う人間愛の精神がなければならない。この人間愛の精神を生徒の内面に育てることが道徳教育の目標である。

しかし、社会や学校といった集団生活の場においては、時として自己と他者の利害が対立したり、自己の権利を

主張するあまりに他者の権利を認めなかったり、それぞれの責任や義務がおろそかになったりする場面がある。そこではとかく利己的、自己中心的ら言動によって、自己の考えや価値観と違う者を排除し、他者の心や生命までも傷つける結果になりがちである。

従って、人間尊重の精神を養うためには、生命の尊重や人間としての権利、責任について、より高次の道徳的思考に気付き、それを内面化することをねらいとして指導しなければならない。

2 生徒について

4月に「どんなクラスを作るか」というテーマで学級会を開き、「All for one, One for all」という学級目標をきめた。「一人ひとり」の生徒がクラスの仲間としてお互いの人格を尊重し合い、常に他者の立場で考えて行動する。」という意味である。現在まで、ことある毎に、この学級目標を意識して活動することの大切さを指導してきた。

授業、学校行事、委員会活動やクラスの係活動等の様子を見ると、失敗を重ねながらも、全体の中での自分の役割と責任を自覚し、クラスのためにかつどうできる生徒が増えてきている。また、お互いの個性の良いところを認め合う雰囲気の中で、自分の考えや立場に固執し、友人間に意見の対立や摩擦が生じることも少なくなってきた。

しかし、自分自身でより高い目標を設定し、それに向かって自己を厳しく練り上げる姿勢、仲間相互の信頼関係を基盤として互いに指摘し合い、高め合う人間関係を作っていくという点ではまだ不十分である。また、追い

*伊勢市立上野小学校
**兵庫教育大学名誉教授

詰められた厳しい場面で、自他の権利や義務について、考えたり、互いの人格を尊重する在り方を追求したりする経験は少ない。

それ故、人間尊重を基盤として、互いの権利、人格の尊重の在り方をより厳しい場面で深く考える機会をもつことは是非とも必要であると考えられる。

3 指導について

この資料は、瀕死の重傷を負った息子マイクの命を救うために、父親がたまたま家の前に車を止めていた運転手に暴力をふるい、車を奪い取って病院へ向かった話である。主人公ジョーンズさんは、車を奪うべきか（生命尊重、家族愛）、車を奪うべきではないか（法律遵守、他者の所有権の尊重）という道徳的葛藤の中で、車を奪うという行為を選択する。この行為に賛成（盗むべきだ）、反対（盗むべきではない）かという点について、「人間の生命」「家族愛」「法律」「権利と義務」などの視点で討論し、人間尊重の精神のあり方を探る。その過程で、より高次の道徳的思考に気づき、道徳的判断力を養うことができると考えられる。表1は、それぞれの視点における道徳的思考を、道徳性の発達段階に照らし合せて予想し整理したものである。

表1 「この子のために」価値分析表

生命尊重、家族愛 (ジョーンズさんの行為に賛成)	法律遵守、他者の所有権の尊重 (ジョーンズさんの行為に反対)
段階1 罰回避と従順志向 (他律的道德)	
<ul style="list-style-type: none"> 命は大切だから。 断った運転手が悪いから。 	<ul style="list-style-type: none"> 警察につかまるから。 法律は守らなければいけない。 暴力(盗み)はいけなから。
段階2 道具的一互惠主義 (自己本意志向)	
<ul style="list-style-type: none"> 人の命は仕事より大切だから。 もし命が助かったとしたら、息子はうれしく思ってくれるから。 暴行を働いて車を盗む罪悪感より子供が死ぬ悲しみの方が大きいから。 	<ul style="list-style-type: none"> 警察につかまり、当分息子と会えなくなるから。 もし病院へ行っても息子が助からなかったら意味がないから。 ジョーンズさんがつかまったら、家族は生活に困ることになる。
段階3 他者への同調、よい子志向	
<ul style="list-style-type: none"> 親として、自分のことより息子の命を優先するのは当然だ。 盗みを働いたジョーンズさんの気持ち息子はわかってくれる。 運転手も人間として人の命を助ける義務がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 親が盗みを働いたことを知ったら息子は悲しむ(喜ばない)から。 息子はこれから犯罪者の子としてまわりから白い眼で見られる。 運転手も本当に大切な用があったのかもしれないから。
段階4 法と秩序志向	
<ul style="list-style-type: none"> 生命を尊重することは、法律上でも最も重要なことであるから。 今、息子の命を救わなかったら、ジョーンズさんは一生後悔することになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じような状況でみんながそうしたら、社会の秩序は保てない。 運転手には、自分の車を自分の自由に使う権利があるから、ジョーンズさんは自分の都合でそれを犯すことはできない。
段階5 社会的契約、法律尊重、および個人の権利志向	
<ul style="list-style-type: none"> 生命に対する権利は、車の所有権を超えるものであるから。 人の命を救おうと考えたとき、暴行を働いたり盗みを犯さなければならぬような社会は、それ自体不公平な社会と言わざるをえないから。 	<ul style="list-style-type: none"> 人が社会の中で共に生きていく場合には、いくつかの共有の約束がなければならない。そのため法律は守るべきである。 自分の息子の生命がかかっているとはいえ、それを守ることが他人の権利を犯すことになる場合、そうしないことがジョーンズさんの信念であるならば、それに従うべきである。

本主題は、1主題2時間構成で行う。

第一次では、主人公ジョーンズさんの「暴力をふるって車を奪う」という行為にいたるまでの葛藤状況の共通理解をした後、第一次の判断とその理由づけを行う。

第2次では、ジョーンズさんの行為に賛成か反対かという論点において、生徒それぞれの理由づけをもとにして討論を展開する。討論の段階では、生徒相互の自由な意見交換から徐々に論点をしぼったものへと発展していくように進めたい。

また、討論の際には、以下の点に留意したい。

- (1) 教師の発言が正答であるという意識や、生徒の発言が教師によって評価されているという雰囲気を除く。
- (2) 教師の計画している討論の方向性にとらわれることなく、生徒の自発的な発言に十分耳を傾け、その流れを尊重する。
- (3) 生徒が発言する時、お互いがよく見え、よく聞こえるような机の配置を考える。
- (4) 生徒相互のコミュニケーションを大切にする。特に道徳的思考の深まりが違う生徒間の交流を図る。
- (5) 討論において必要な様々な技能・能力や温かい雰囲気育てる。

IV 学習計画(2時間扱い)

第1次：資料を読み、主人公の行為に賛成か反対かについて考え、判断・理由づけをする。

第2次：第1次の判断・理由づけをもとにして討論を行い、再度、判断・理由づけを行う(本時)。

V 本時の展開(第2次)

1 ねらい

○資料を読み、法律遵守、所有権の尊重、生命尊重、家族愛などの内容に気づき、主人公ジョーンズさんが葛藤状況に陥った状況を読み取る。

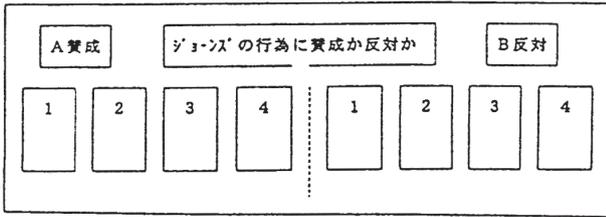
○主人公の行為に賛成か反対かについて、色々な状況を考えて合わせて客観的に判断し、理由づけを行う。

2 学習の展開

学習活動	予想される生徒の反応	一人ひとりを生かすための指導上の配慮
1. 資料を読み、主人公の著述状況を思い起こす。問題を焦点化してとらえる。		○資料を読んで、主人公の著述状況を再確認し、討論への動機づけにしたい。
<p>○最後の場面で、ジョーンズさんは「車を奪うべきか」「奪うべきではないか」迷ったと思います。それはなぜですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・息子の命も助けたいし、車を奪うこともいけないことだから。 <p>○迷ったあげく、ジョーンズさんは運転手に暴力をふるい、車を奪いました。今日は、このジョーンズさんの行為に賛成か反対かについてみんなで話し合ってみましょう。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ジョーンズさんの行為に賛成か反対か</div>		
2. 自分の第1次の判断・理由づけを見直す。	A. ジョーンズさんの行為に賛成 B. ジョーンズさんの行為に反対 C. わからない（迷っている）	○各自の判断・理由づけを再確認させ、討論の意欲化へと結びつけたい。
3. 第1次の全体の判断と理由づけを知る。		○第1次判断の人数分布を知らせ、賛成理由、反対理由の代表的なものをそれぞれいくつか提示する。
4. 他者の理由づけに対する賛成意見、反対意見、質問を考える。		○友達のと自分の考えとの類似点、相違点を確認させる。 ○ある程度時間をとり他者と自分の考え方の相違点を明確に把握させたい。 ○理由づけを整理した用紙（判断理由づけ書き込みカード）に書き込ませる。

5. 他者の理由づけに対して、意見や質問を発表する。		○各自の書き込みをもとにして、自由に発表させる。 ○書き込んだことを発表させるだけでなく発表された意見・質問に対する考えも自由に発表させる。 ○発表の様子を見ながら教師が徐々に論点を整理して提示する。
6. 焦点化された論点について討論する。	<ul style="list-style-type: none"> ○命を守ること、法律を守ること（他人の所有権を守ること）では、どちらが重要か。 ○運転手の行為をどう思うか。 ○運転手は何か悪いことをしたか ○ジョーンズさんは何か悪いことをしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法律上は悪いことをしていないが、道徳的には悪いことをした ・法律を破った。もしかすると、他人の所有権をおかすという道徳的に見ても悪いことをしたのかもしれない。しかし、人の命を守るという点では、道徳的に見て正しい行為だ。
7. ジョーンズさんの行為に賛成か反対かについて再度判断し、理由づけを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○もし、自分がジョーンズさんだったらどうするか。 ○もし、自分が運転手だったらどうするか。 ○もし、あなたが裁判官だったらジョーンズさんをどんな刑にするか。 ○刑を与えるのはなぜか。 ○ジョーンズさんが、また同じような場面に出くわしたとしたらどうするか。 ○ジョーンズさんの行為に賛成か反対か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もし、あなたが・・・だったら」という役割取得を促す質問は大切に扱いたい ○教師が用意した論点にこだわらず、生徒の討論の流れを大切に ○第1次の判断にとらわれなくて、自由に判断、理由づけさせる。

3 板書計画



注) 上図の□は、賛成、反対それぞれの代表的な理由を書いた紙を掲示したもので、その下に、意見に対する賛成・反対・質問などを板書する。

	発問の型	発問
I	理解を確認する発問 他の生徒が発言者の言葉 を理解しているかを確認する もの。	・○○さん、△△君が言ったことをあな たの言葉でもう一度言ってみて下さい。 ・○○さん、△△君の言ったことがわか りますか。
II	議論に参加させる発問 その時点で問題になっ ている論点について、他の生 徒に意見を求める。	・○○さん、△△君が言っていること について、あなたはどう思いますか。 ・○○さん、「・・・(論点)」につい て、あなたは どう思う。
III	定義の発問 生徒がよく考えずに言葉 を用いた時や、他の生徒が 理解困難であったり、生徒 によって解釈が異なるよう な発言がなされた時に、発 言者に言葉や発言内容の意 味づけを求める。	・あなたが言ったことを、もう少しわか りやすく言って下さい。 ・例をあげて説明して下さい。 ・所有權ってわかりますか。
IV	より高い段階の反応を引 き出したり、その反応に焦 点を合わせる発問 その時点で取られている 段階の考え方の限界を考え させたり、その限界への示 唆を与える。	・「暴力、盗みは悪いこと」というのは わかるんですが、今回のように「人の命 がかかっている」場合でも「悪いこと」 となるのだろうか。 ・刑務所へ行き「世間から白い目で見ら れる」かも知れないけども、それを恐れ て息子の命を救うことをあきらめるので すか。 ・どんな場合でも、法律を守らなければ ならないのだろうか。
V	役割取得を促す発問 生徒にジレンマの中でい ろいろな登場人物の立場に 立って考えさせる。	・もし君たちがジョーンズさんの立場だ ったらどうしますか。 ・もし君たちが運転手の立場だったらど うしますか。 ・もしあなたが息子の立場なら、自分の 命を助けるために暴力をふるい車を盗ん だ親のことをどう思いますか。 ・社会全体という観点から見たらジョ ーンズさんの行為は正しいと考えられま すか。
VI	一般的な結果に対する発 問 もしそうすれば結果はど うなるかを考えさせ、道徳 的ジレンマに含まれる道徳 的価値に基づく道徳的理由 づけを求める。	・もし、ジョーンズさんが犯罪を犯すこ とを恐れて車を盗まなかったら(息子の 命が助かる可能性を捨ててしまったら) どんなことになるだろう。 ・このお話では、ジョーンズさんは暴行 と盗みをはたらいたわけですが、ジョ ーンズさんはその後、どんな人生を送るで しょう。 ・運転手の行為をどう思いますか。 ・この話の運転手は、何か悪いことをし たと思いますか。 ・ジョーンズさんは何か悪いことをした と思いますか。
VII	道徳的価値の重要性の提 議を求める発問 道徳的判断の背景にある 理由を問う。	・命が助かる可能性を捨ててまでも、暴 行や盗みが悪いと思うのはなぜですか。 ・法律と命とどちらが重要ですか。

2 道徳授業「この子のために」の授業分析と考察

第一次の判断, 理由づけをもとにして, 「判断・理由
づけ書き込みカード」(表1-1)を作成した。これは, 第
一次の各生徒の理由づけを分析し, 代表的なものをいく
つか選んだものである。生徒はこのカードへの書き込み
をもとにしてディスカッションを展開する。従って, ディ
スカッションの論点は授業前にある程度予想できる。予
想した主な論点は次の通りである。

- ① 運転手は何か悪いことをしたか。
 - ・ 法律的にはどうか。
 - ・ 道徳的にはどうか。
- ② ジョーンズさんの行動についてはどうか。
 - ・ 法律的にはどうか。
 - ・ 道徳的にはどうか。
- ③ 法律は破ってもいいのか。
- ④ ジョーンズさんは他人の子でも同じように助ける
べきか。
- ⑤ 君たちが運転手ならどうするか。
- ⑥ もし君たちがマイクなら, この後助かったとして,
父親のことをどう思うか。

実際のディスカッションにおいても, 上記6点の全て
が論点となり話し合いが持たれた。このディスカッショ
ンが, 各生徒の道徳的思考にどのような影響を及ぼした
かについて, 判断の変容, 理由づけの変容という2つの
視点から分析する。

1 判断の変容

ディスカッションの前後における判断の変容は, 表2
の通りである。

表2 判断の変容

		第 二 次			合計
		A 賛成	B 反対	C迷っている	
第 一 次	A 賛成	24	0	0	24
	B 反対	3	2	0	5
	C 迷い	1	0	1	2
	合計	28	2	1	31

注) 判断A: ジョーンズさんの行為に賛成
判断B: ジョーンズさんの行為に反対
判断C: 迷っている(判断保留)

第一次では, A
(ジョーンズさんの
行為に賛成)が24人,
B(反対)が5人,
C(迷っている)が
2人であった。これ
が, ディスカッショ
ン後の第二次では,
A(賛成)が28人,
B(反対)が2人,
C(迷っている)が
1人となった。

判断を変更しなかった生徒は27人, 変更した生徒は4
人である。第一次にAと判断した生徒24人は, 全員第二
次でも同じ判断をしている。第一次にBと判断した生徒
5人の内, 2人は判断を変更せず, 3人はA(賛成)に
判断を変更している。また, 第一次にCを選択し判断を
保留していた生徒2人の内, 1人は判断をAとした。

従って, ディスカッション前後における判断の人数分
布の変容は, 第一次にB, Cの判断をしていた生徒7人

の内4人が判断をAに変更したものであるということがわかる。

2 理由づけの変容

第一次と第二次の各生徒の理由づけを、「役割取得」「道徳的価値」という2つの視点から分析し、ディスカッションが生徒一人ひとりの道徳的思考にどのように作用したのかを明らかにする。

(1) 役割取得に基づく理由づけの変容

各生徒の理由づけの中から、役割取得にもとづく理由づけの記述をぬきだして整理したものが表3-1、3-2、4-1、4-2である。表3-1と表3-2は、それぞれ第一次と第二次の賛成の記述、表4-1と表4-2は、それぞれ第一次と第二次の反対の記述である。

資料「この子のために」では、ジョーンズさん（父親）、運転手、マイク（息子）が主な登場人物である。賛成の理由づけには、これら全てへの役割取得の記述が見られる。また、反対の理由づけには、運転手とマイクへの役割取得の記述が見られる。まず、賛成、反対それぞれで、第一次と第二次の記述数を比較すると表5のようになる。

表5 役割取得の記述数の変容

賛 成		
役割取得の対象	第一次	第二次
ジョーンズさんへの役割取得	29	21
自分がジョーンズさんなら	9	4
親として	20	13
人間として	0	4
運転手への役割取得	4	12
自分が運転手なら	3	8
人間として	1	4
マイクへの役割取得	1	4
合 計	34	37

反 対		
役割取得の対象	第一次	第二次
運転手への役割取得	7	4
マイクへの役割取得	2	1
合 計	9	5

第一次の賛成の記述は、34件の内29件までが、ジョーンズさんへ役割取得したものになっている。ジョーンズさんという一方的な視点しか取れなかった生徒が多かったことがわかる。これに対して、第二次では、ジョーンズさんへの役割取得が21件に減少し、運転手への役割取得が12件、マイクへの役割取得が4件とそれぞれ増加した。ディスカッションが、より多くの立場への役割取得を促

したことがわかる。生徒は1つの問題をいろいろな立場で考え、それらを調整して解決していったと思われる。

反対の理由づけについては、第一次から第二次にかけて、運転手に役割取得した記述とマイクに役割取得した記述はともに少なくなっている。これは、反対の判断がディスカッションを通して減少したからであると推測される。また、第一次、第二次とも、反対の理由づけの中には、ジョーンズさんに役割取得した記述は見られない。運転手とマイクの立場で考えたことは調整できても、それにジョーンズさんの視点を取り入れて反対の理由づけとしての整合性を見いだすことはできなかったようである。次に、役割取得に基づく理由づけの質的な変容について、第一次と第二次の記述内容を比較することによって検討する。

表3-1、表3-2は、それぞれ第一次、第二次の賛成の記述である。ジョーンズさんへの役割取得の中で、「私がおの立場なら」という記述においては、ディスカッション前後で内容の変化は見られない。「親として」の分類に入る記述では、「ジョーンズさんの取った行動は親として当然のことだ。」「親として息子を助けるためなら、罪を犯すこともいとわない。」「ジョーンズさんは、自分の取った行動に後悔はしないだろう。」という記述は、第一次、第二次の両方に見られるものである。

ジョーンズさんに役割取得した記述で、第二次で新たに付け加わったものは、No.13、14、15のような「人間として」という記述（4件）である。ディスカッションにおいては、論点の1つとして、「運転手やジョーンズさんの取った行動は、法的にはどうか、また道徳的にはどうか。」という点で検討が行われた。その中で、「法律をこえたところに人間としてしなければならないことがある。」という考え方に生徒が気づいたことが、「親として」から「人間として」への役割取得の変容をもたらしたと考えられる。

運転手へ役割取得した理由づけでは、「自分が運転手なら車を貸してあげる。」という記述は、第一次、第二次ともに見られる。しかし、第二次のNo.19「もし首になっても、助けたということで満足感にあふれると思う。」、No.20「車を貸さずにマイクが死んだら、見殺しにしてみたら自分の心の中にいつまでも残る。」というような運転手の気持ちを推測した記述は、第一次では見られなかったものである。これは、ディスカッションの中で、運転手の所有権について考えたり、運転手へ役割取得して考える機会を与えられたからであると考えられる。

「人間として」という視点は、運転手に役割取得した理由づけの中でも、第一次の1件（No.22）から第二次の4件（No.22～25）へと増加している。

また、マイクへの役割取得については、内容的な変化は見られない。

表4-1、表4-2は、それぞれ第一次、第二次の反対の理由づけである。運転手に役割取得した記述では、第一次、

第二次とも、第三者的な視点から、運転手の気持ちや立場への理解を示した内容が多い。ただ唯一、第二次のNo. 3「運転手も助けたい気持ちはあって、迷いに迷って出した結論で仕方がないと思う。」という記述は、運転手に深く役割取得した内容であると言える。

また、反対の理由づけにおいても、マイクへの役割取得の内容には変化が見られない。

以上のような理由づけの質的な分析からも、今回のディスカッションは、生徒に、より多くの他者への役割取得を促すという点で効果的に作用したと言える。そして、複数の他者への役割取得によって与えられた新たな認知的葛藤を解決する過程で、生徒の理由づけはより深いものになっていったと考えられる。

(2) 道徳的価値別の理由づけの変容

ここでは、道徳的価値のそれぞれにおいて、生徒の理由づけがディスカッション前後でどのように変容したのかを明らかにする。

学習指導要領には、道徳教育の内容として、4つの視点とそれらを構成する22の内容項目が示されている。これは、いわば道徳的内容を持つ指導内容であるから、ときにはいくつかの道徳的価値を含み、主従、上位下位概念によって、構成されているものもある。従って、内容イコール価値ではない。そこで、分析の第一段階においては、道徳の内容項目から個々の道徳的価値を取り出し、各生徒の理由づけの記述を価値別に分類した(表6-1, 表6-2, 表7-1, 表7-2, 表8-1, 表8-2, 表9-1, 表9-2)。

賛成の理由づけには、人間愛・思いやり、生命尊重、家族愛、反対の理由づけには、責任、自他の義務・権利の尊重、法律遵守、家族愛という価値に分類される記述が見られた。記述総数は、第一次で賛成が74件、反対が29件、合わせて103件、第二次では賛成が77件、反対が18件、合わせて95件である。賛成の記述の増加と反対の記述の減少は、ディスカッション前後における判断の人数分布の変化に伴うものであろう。総数としては、第一次と第二次で大きな違いはない。

第一次と第二次で、それぞれの価値に基づく理由づけの数を比較したものが、図1、図2である。

図1を見ると、賛成の理由づけでは、第一次から第二次にかけて、家族愛の記述が30件から17件に減少し、代わって人間愛・思いやりの記述が24件から35件へ、生命尊重の記述が20件から25件へそれぞれ増加していることがわかる。役割取得に基づく理由づけの分析結果とも考え合わせると、価値に対する考え方が、第一次ではジョーンズさんという親の視点にとらわれがちであったが、ディスカッションを通して、より普遍的なものに方向づけられたと考えられる。

また、反対の理由づけでは、自他の義務・権利の尊重の理由づけが22件から13件へ、法律遵守の理由づけが4件から1件へと減少した(図2)。これは、賛成の理由

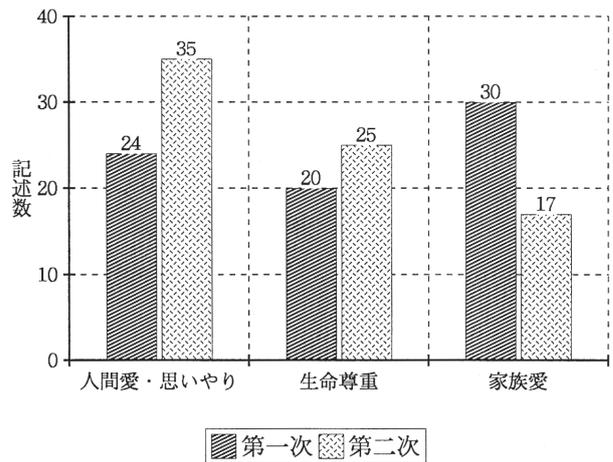


図1 道徳的価値の価値別の記述数 (賛成)

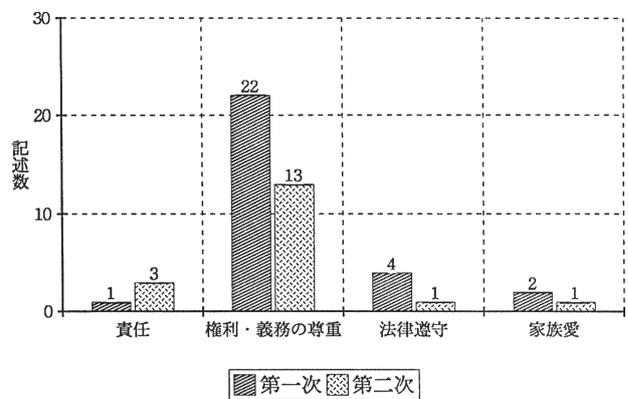


図2 道徳的価値の価値別の記述数 (反対)

づけの変容と密接に関連するものであり、生命の価値の普遍性や、ディスカッション場面における「法律をこえたところに人間としてしなければならないことがある。」という発言からも推測できる変化である。

次に、それぞれの道徳的価値で、生徒の理由づけが質的にどのように変わったかを明らかにする。表6-1、表6-2は、それぞれ第一次と第二次の人間愛・思いやりの理由づけである。この表をさらに記述内容によってまとめたものが、表6-3である。

表6-3 人間愛・思いやりの理由づけの変容

No.	記述内容	第一次	第二次
1	ジョーンズさんは人間として当然のことをした		1, 2, 3, 4, 5
2	自分が運転主なら車を貸す(子どもを助ける)	3, 4	6, 7, 8,
3	運転手の後悔、満足感		9, 10
4	運転手が人間として車を貸すべきだ	4	12, 13
5	運転手に対する非難	1, 2, 5, 6, 7, 9, 11, 12, 13, 15	14, 15, 16, 17, 18, 19, 21, 22, 24, 25, 26
6	運転手は車を貸すべきだ	8, 10	20, 23

注) 第一次、第二次の番号は、それぞれ表6-1、表6-2の理由づけである

第一次では、人間愛・思いやりに基づく理由づけのほとんどが、運転手に対する非難というかたちで表れていた。その以外の理由づけも、状況的に子どもを助けるのが自然であるとしたものである。これに対して第二次では理由づけが多様化し、第一次にはなかったより深い考え方も見られるようになった。No.1のような「人間としてどうすべきか」を考えた記述や、No.3の「運転手の後悔、満足感」について触れた記述は人間愛・思いやりの意識の深まりを感じさせるものである。

表7-1、表7-2は、それぞれ第一次と第二次の生命尊重の価値に基づく理由づけである。この表をさらに記述内容によってまとめたものが、表7-3である。

表7-3 生命尊重の理由づけの変容

No.	記述内容	第一次	第二次
1	命は他の何物にも代えられない	20, 21, 22, 24, 25, 27	28, 32
2	仕事よりも命の方が大切だ	18, 19, 23, 26	29, 30, 31, 33, 35
3	自分が運転手の立場なら	29	34
4	人間として1つの命を守るべき		36, 37, 38
5	命を助けないことの方が罪が大きい	32, 34	40, 41, 43
6	生命の価値は法律を超えるものである。 法律の意義	33	42, 44, 45

注) 第一次、第二次の番号は、それぞれ表7-1、表7-2の理由づけである

第一次における生命尊重の中心的な理由づけは、No.1「命は他の何ものにも代えられない。」とNo.「仕事よりも命の方が大切だ。」というものである。これは命が唯一絶対のものであるという認識に基づいている。この生命に対する考え方をさらに深めるために、ディスカッション場面においては、生命尊重のより詳しい根拠を問う発問や道徳的により高い段階の考え方を引き出す発問を行った。それは次のようなものである。

- ・運転手は、ジョーンズさんの申し出を断っても、法律的には罰を受けることはありません。それでも君たちが「運転手が悪い」と考えるのはなぜですか。
- ・「時には法律を破ってしまうことがあってもいいと思う。」という意見がありますが、どういう時なら法律を破ってもいいと思うのですか。
- ・もし大怪我をしているのが自分の子どもではなかったとしても、ジョーンズさんは同じようなことをすべきだと思いますか。

これらの発問は、生徒の中に新たな道徳的葛藤を引き起こし、ディスカッションで出された様々な意見は、それを解決する方向で展開された。その結果、第二次では、No.36, 37, 38のような「命を助けることが人間としての義務である。」とする考え方や、No.34, 39の「他人の命でも助けるべきである。」というもの、No.42, 44, 45に見られるような、「法律の意味」について考えた記述や、「生命の価値は法律をこえるものである。」ということに気づいた記述が見られるようになった。これらは生命

を普遍的な価値として捉えた考え方である。

家族愛に基づく理由づけ(表8-1、表8-2)を内容別に整理すると、表8-3となる。

表8-3 家族愛の理由づけの変容

No.	記述内容	第一次	第二次
1	親として息子の命を心配するのは当然である	37, 46	46, 48
2	親なら逮捕される覚悟で罪でも何でも犯すだろう	41, 45, 48, 49	47, 57
3	マイクや家族はジョーンズさんに感謝する	54	49, 50, 51
4	自分がジョーンズさんと同じ立場なら同じ事をする	40	52
5	ジョーンズさんはマイクが助かったら後悔しない	52, 53	53
6	ジョーンズさんはマイクが助からなくても後悔しない	38, 39, 47, 51	54, 55, 56
7	冷静でなかった。焦ってそんなことをしたんだ	36, 42, 43, 44	

注) 第一次、第二次の番号は、それぞれ表8-1、表8-2の理由づけである

家族愛に基づく理由づけで変化が見られるのは、表8-3のNo.7に属する記述が第二次では見られなくなった点である。「息子の命をどうしても助けたかったんだから仕方がないと思う。(表8-1のNo.36)」「子どもが死にかけているのに冷静になるのは無理だ。(表8-1のNo.42)」

「ジョーンズさんも相当あせっててそんなことをしたのだと思う。(表8-1のNo.43)」「この状況でジョーンズ氏は冷静な判断もできない。(表8-1のNo.44)」という意見は、ジョーンズさんの置かれた状況の理解としては適切であるが、どうすべきかという積極的な価値選択のための理由づけとしては不十分である。第二次にこれらの記述が見られないのは、ディスカッションが各生徒の主体的な価値選択の意識に支えられて展開されたからであると考えられる。

次に、ジョーンズさんの行為に反対する理由づけを、道徳的価値別に分析する。表9-1が第一次の反対の理由づけ、表9-2が第二次の反対の理由づけである。反対と判断した生徒が、第一次で5人、第二次で2人と、どちらも少ないため、理由づけの数も少なくなっている。反対の理由づけをまとめると表9-3になる。

表9-3 反対の理由づけの変容

価値	No.	記述内容	第一次	第二次
責任	1	マイクの怪我は親の不注意だ	1	1
	2	ジョーンズさんの責任		2
義務・権利	3	運転手の立場や状況の理解	2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	3, 4, 5
	4	運転手の所有権の尊重	9, 10, 11	6, 7, 8
	5	ジョーンズさんへの非難	12 ~ 21	9, 10, 11
法律遵守	6	法律は守らなければならない	22, 23, 24	12
家族愛	7	マイクや家族は寂しく覆う	25, 26	13

注) 第一次、第二次の番号は、それぞれ表9-1、表9-2の理由づけである

反対の判断の根拠とされた道徳的価値は、責任、自他の義務・権利の尊重、法律遵守、家族愛である。第一次に多く見られた理由づけは、自他の義務・権利の尊重と

いう価値に基づく、No.3「運転手の立場や状況への理解」と、No.5「ジョーンズさんへの非難」である。第二次では、これら2つの理由づけは少なくなっている。その他では、責任という価値に基づくNo.2の理由づけが、第二次で新しく見られるようになっただけで、それぞれの内容の記述数は、減少の傾向にある。ディスカッションでは、反対の立場の生徒が少なかったということもあり、所有権の尊重や法律遵守の視点からの意見が十分に出されなかったのも事実である。これらの価値に対する考え方を深める方向でも、ディスカッションを展開する必要があったと考える。その意味では、第一次のNo.19「ジョーンズさんもいくら息子の命を助けたいからといって、他の人を傷つけるというところは、それは結局車の人が自分の仕事のためにマイクを病院に連れていかなかったことと一緒にする。(表9-1)」という理由づけや、第二次のNo.2「自分の責任を周りの人やものにあたるのはいけない。(表9-2)」、No.12「法律に反することはいけない。それを守るぎりぎりの行動を取って責任を持たなければいけない。(表9-2)」という考え方を、ディスカッション場面で引き出すことも1つの方法であったと思う。そうすることによって、自他の義務・権利の尊重や法律遵守の重要性について考える機会を生徒に与えることができたのではないかと考える。

これまで、第一次と第二次の理由づけを比較することによって、生徒の道徳的思考の変容について分析してきた。また、それはどのようなディスカッションによるものなのかについても検討を行なった。

役割取得に基づく理由づけの分析では、以下のようなディスカッションの効果が認められた。

- ・より多くの立場への役割取得ができるようになった。
- ・「親として」から「人間として」への役割取得の変容が認められた。
- ・運転手の気持ちを多面的にとらえることができるようになった。
- また、道徳的価値別の理由づけの分析でも、いくつかの効果が見られた。
- ・価値に対する考え方が、より普遍的なものに方向づけられた。
- ・人間愛・思いやりの意識の深まりが認められた。
- ・生命を普遍的な価値としてとらえる考え方が見られるようになった。
- ・主体的な価値選択の意識に基づいた考え方が見られるようになった。

しかし、一方では、所有権の尊重や法律遵守の価値に対する考え方をさらに深めるという方向で、ディスカッションを組織する必要があったのも事実である。この意味では、発問や指導展開の工夫、さらにディスカッションにかかる時間的な問題が、今後の検討課題である。

文献

荒木紀幸・鈴木憲 1995 ビデオで授業レッスン④「モラルジレンマ授業—この子のために・中学1年」 明治図書
 鈴木憲 1999 モラルジレンマ授業はどのように進めるか—ジレンマ資料「この子のために」を用いた中学校における実践—第16回 夏期合宿研究会資料、道徳性の発達に関する研究年報 1999年版(第11号)45-60頁。兵庫教育大学道徳性発達研究会

(表1-1) 判断・理由づけ書き込みカード

	理由	○×	意見・質問
A	1. 仕事よりも人の命の方が大切だ		
	2. 運転手が悪いと思う		
	3. たとえ警察に捕まっても、息子の命を助けるなら親として後悔はない		
	4. 犯罪は悪いことだけど、時には法律を破ってしまうことがあってもいいと思う		
B	1. 命が掛かっていても、人のものを暴力で奪っていいとは思わない		
	2. 車を貸すか貸さないかは運転手の権利だ。(所有権)		
	3. ジョーンズさんが逮捕されたら、マイクと妻はさみしくて、辛い思いをする		
	4. マイクが怪我をしたのは親の不注意だ。ジョーンズさんは勝手過ぎるのではないか		

A ジョーンズさんの行為に賛成 B ジョーンズさんの行為に反対

(表4-1) 役割取得に基づく理由づけ(第一次の反対の理由づけ)

嫌	嫌	No.	記述内容	嫌
運転手	気持や立場	1	殴られて車を盗まれた運転手はかわいそうだ。	1
		2	大切な仕事があるので止まっていたのに勝手に盗られるなんておかしい	1
		3	仕事の打ち合せに遅れて首にでもされたら、運転手の生きる道がなくなるかも知れない。	1
		4	打ち合せとかで車がいったら、運転手には悪いと思う。	1
		5	打ち合せで運転手のこれからの人生が決まるならともかく・・・	1
		6	運転手にも大事な仕事があるんだから、運転手の意見も尊重すべきだ。	1
		7	人の命がかかっているとはいえ、赤の他人なんだし大切な仕事をつぶすわけにはいかないと思う。	1
マイク	家族の気持	8	マイクが助かってジョーンズさんが逮捕されているんだから、マイクは父親がいないんだから寂しく思うだろう。	1
		9	本当にそんなことをして妻とマイクは喜ぶのかなと思う。ジョーンズさんが逮捕されたら、せつなく助かったマイクと妻はとても寂しくつらいだろう。マイクと妻は犯罪者の家族として他人に冷たい眼で見られるから。	1

(表4-2) 役割取得に基づく理由づけ(第二次の反対の理由づけ)

嫌	嫌	No.	記述内容	嫌
運転手	気持や立場	1	運転手だって悪い人ではないだろう。	1
		2	運転手を責めることもできない。	1
		3	運転手も助けたい気持ちはあって迷いに迷って出した結論で仕方がないと思う。	1
		4	運転手にも自分なりの理由があるのに、それを無視して悪者あつかいするのは間違っている。	1
息子	気持	5	ジョーンズさんが逮捕されたら、いなくなるだけでなく他の人から白い眼で見られる。マイクと妻はさみしくて辛い思いをする。	1

(表3-1) 役割取得に基づく理由づけ (第一次の賛成の理由づけ)

嫌疑者	種類	No.	記述内容	人数
ジョーンズ	親	1	私もたぶんこんなことが起きたら、ジョーンズさんと同じ行動をとっていたと思う。	8
		2	たとえ逮捕されても息子の命が助かるなら、僕ならかまわないと思う。	1
	親子	3	マイクが死んだら親としてすごく悲しい。	1
		4	子どもを助けるのは親として当たり前だ。	1
		5	息子の命をどうしても助けたかったんだから仕方がないと思う。	1
		6	ジョーンズさんは、もしマイクが死んでも安心して刑務所へ入っていられると思う。	1
		7	息子が助かったらすごくうれしいし、助からなくても何もしないで助からないより絶対いいと思う。	1
		8	父親になったことがないからわからないが、子どもが死にかけているのに冷静になるのは無理だ。	1
		9	息子の命が危なくて1分1秒をあらそうことだからジョーンズさんも相当あせっててそんなことをしたのだと思う。	2
		10	緊急なことだから止むを得ないと思うし、この状況でジョーンズ氏は冷静な判断もできない。	1
		11	息子のためなら罪を犯してでも助けてやりたい。息子が死んでいくのが見たくない。	1
		12	自分の息子を見殺しにはできない。	1
		13	ジョーンズさんはマイクを救うために自分は犯罪者となることも覚悟でしたことだ。	2
		14	父親なんだし、自分が犯罪を犯すことくらい怖くはないだろう。	1
		15	愛する人のために最善の行いだ。	1
		16	もし盗まざらマイクが死んだら、自分が見殺しにしてしまったと思ひ、すごく悔しい。	1
		17	ジョーンズさんはこの行動をしなかったら後悔すると思う。	1
		18	ジョーンズさんがやったことはすごくいけないことだけど、マイクがもし助かったら後悔しないと思う。	2
		19	もしここでマイクを助けられなかったら、きっと後悔するに違いない。	1
マイク	親子	20	私なら大事な仕事があっても命を助けるために病院まで運んであげる。	2
		21	たとえ赤の他人だとしても僕なら車を貸すと思います。	1
マイク	親子	22	もし僕が運転手なら、運転手の仕事为首になったとしても、人間として僕は助ける。	1
		23	ジョーンズさんが車を盗んでマイクを助けたら、マイクは感謝すると思う。(犯罪を犯してまで息子を助けようとしたのだから。)	1

(表3-2) 役割取得に基づく理由づけ (第二次の賛成の理由づけ)

嫌疑者	種類	No.	記述内容	人数
ジョーンズ	親	1	もし運転手がジョーンズさんの立場ならジョーンズさんと同じことをしたと思う。だから賛成に変えた。	1
		2	僕がこの立場だったらそうしていると思う。	2
		3	他人の子どもでも私は助ける。	1
	親子	4	親として当然のことだ。	2
		5	息子の命が危ないし、さらに車がないなら、罪でも何でも犯す。	1
		6	親の不意でマイクが怪我をしたが、その分逮捕される覚悟でマイクを助けたので、マイクへは十分つづけた。	1
		7	親なら子どもの命を心配するのは、自分の命より心配すると思う。	1
		8	犯罪であろうと思子の命に代えられるものはない。	2
		9	マイクが助かったら悔いは残らないだろう。	1
		10	こういうことで捕まっても、恥というよりはいい方だ。	1
		11	息子の命を助けるためにしたことだから、法律を破って捕まっても後悔しないだろう。	3
		12	マイクが死んでも、できる限りのことをしたんだから、捕まっても後悔しない。	1
親	13	ジョーンズさんは人間として当たり前行動をとった。	2	
	14	マイクが助かったら、人間として何よりも名誉なことだ。	1	
	15	ジョーンズさんは人間として恥ずかしくないことをした。	1	
運転手	立場	16	運転手の仕事がとても大切で人生を左右するものであっても自分ならば車を貸してあげる。	3
		17	もし僕が運転手だったら、血まみれの子どもを見たらノーとは言えない。	1
		18	自分が運転手だったら、やっぱり仕事は大切だけど、いくら他人の命でも助けてあげる。	1
		19	もし首になっても、助けたということで満足感にあふれると思う。	1
		20	車を貸さずにマイクが死んだら、見殺しにしてしまったと自分の心の中にいつまでも残る。	1
人間	とり	21	自分にとっては大事なことで相手の人にとってもっと大事なことから助けてあげる。	1
		22	この場合、運転手が助けるのは人間としての使命だ。	1
		23	1つの命でも守ってあげるのが人間としてすべきことだと思う。	1
		24	運転手が子どもを助けたら仕事を失敗しても人間として成功したと思う。	1
		25	自分の車で人の命が救えたら、それだけですばらしいことだ。	1
マイク	親子	26	マイクは暴行や窃盗などを犯してまで助けてくれた父に対して感謝して一生懸命頑張って生きていくと思う。	2
		27	逮捕されてもマイクや妻は感謝する。	1
		28	捕まってもこの家族は父親のことを誇りに思う。	1

(表6-1) 「人間愛・思いやり」の視点からの理由づけ (第一次の賛成)

内容項目	No.	記述内容	人数	
人間愛・思いやり	1	1	普通の人なら血まみれになっている子どもを目の前に放っておけなかったと思う。	3
		2	マイクはすごい傷をしているのだから、普通、運転手の人は車を貸してあげると思う。	1
		3	たとえ赤の他人だとしても僕なら車を貸すと思います。	1
		4	もし僕が運転手なら、運転手の仕事为首になったとしても、人間として僕は助ける。	1
		5	運転手は自分のことしか考えていない。	1
		6	血まみれになったマイクを見たのに協力しようとしなかったから運転手も悪い。	2
		7	少しは運転手の人もわかってあげるといっても情けじゃないかと思う。	1
		8	いくら大切な仕事があっても病院まで連れて行ってあげてほしいと思う。	1
		9	ジョーンズさんも悪いが、運転手はもっと悪い。	1
		10	運転手もジョーンズさんに車を貸してやればいいのにと思う。	3
		11	いくら大事な打ち合わせがあると云って死にそうな人を目の前にして放っておく方がおかしいと思う。	1
		12	命が危なくどうしようもなく苦しんでいるジョーンズさんに車を貸してあげない運転手はちょっとひどい。	1
		13	車を貸してあげなかった運転手は常識はずれだ。	1
		14	死にそうなら大事な仕事でも何でも貸してやるべきだ。	1
		15	目の前で子どもが血まみれになっているのに助けてあげようとしなくて殺されても当たり前だ。	1
		16	犯罪でも警官は理由を言えばわかってくれると思う。	1
		17	大切な仕事でも相手の人に説明をしたらわかってもらえると思う。	3

(表6-2) 「人間愛・思いやり」の視点からの理由づけ (第二次の賛成)

内容項目	No.	記述内容	人数	
人間愛・思いやり	1	1	ジョーンズさんは人間として当たり前行動をとった。	2
		2	法律では許されなくても、人からは許されることだと思う。	1
		3	人間は助け合っていかなければ生きていけないと思う。	1
		4	マイクが助かったら、人間として何よりも名誉なことだ。	1
		5	ジョーンズさんは人間として恥ずかしくないことをした。	1
		6	運転手の仕事がとても大切で人生を左右するものであっても自分ならば車を貸してあげる。	3
		7	もし僕が運転手だったら、血まみれの子どもを見たらノーとは言えない。	1
		8	他人の子どもでも私は助ける。	1
		9	もし首になっても、助けたということで満足感にあふれると思う。	1
		10	車を貸さずにマイクが死んだら、見殺しにしてしまったと自分の心の中にいつまでも残る。	1
		11	自分にとっては大事なことで相手の人にとってもっと大事なことから助けてあげるべき。	1
		12	運転手が子どもを助けたら仕事を失敗しても人間として成功したと思う。	1
		13	この場合、運転手が助けるのは人間としての使命だ。	1
		14	運転手にも所有権はあるが、命がかかっているのに車を貸さないなんてひどい。	1
		15	運転手には所有権があるが、血だらけの人を見たら車に乗せるのが普通だ。	3
		16	運転手には人の心がない。	1
		17	運転手の人は人間のくずだと思う。	1
		18	運転手の人は何だかの形で助けてあげるのが普通だ。	1
		19	運転手は冷たすぎる。ひどい。	2
		20	せめて車くらい貸してあげてほしいと思う。	3
		21	たとえ自分の人生を左右することでも、自分より幼くて未来のある子どもを見捨てるなんてとんでもないと思う。	1
		22	血だらけで苦しんでいる子どもを見て手放すことすらしない運転手は許せない。	1
		23	運転手も愛を示して車を貸すべきだ。	1
		24	苦しんでいる人を助けてあげられないなんて、人間として恥ずかしい。	1
		25	いくら大事な仕事があっても、人間として死にそうな人を放っておくのは人間じゃないと思う。	1
		26	運転手が警察と一緒に病院まで追いかけてくるなんて、人間として恥ずかしいことだと思う。	1
		27	もし運転手がジョーンズさんの立場ならジョーンズさんと同じことをしたと思う。だから賛成に変えた。	1

(表7-1) 「生命尊重」の視点からの理由づけ (第一次の賛成)

内容項目	No.	記述内容	人数	
生命尊重	1	18	人の命より仕事をとる時点でむちゃくちゃ。	1
		19	打ち合わせと人の命では人の命の方が絶対大事だ。	2
		20	マイクの命はたった1つしかなくて、すごく大切だ。	1
		21	命だけは他の何とも代えられないと思う。	1
		22	命はお金では代えられないけど、	1
		23	命を守るということは仕事よりも大事だ。	1
		24	子どもの命には代えられない。	1
		25	人の命はかけがえのないものだ。	1
		26	仕事は理由を言えば助かるかも知れないけど、命は理由をつけても助からない。	2
		27	マイクの命には代えられないから、この場合仕方なかったと思う。	1
		28	1人1つの命、そんなに簡単につぶしてしまっても罪が大きいと思う。	1
		29	私なら、大事な仕事があっても命を助けるために病院まで運んであげる。	2
		30	ジョーンズさんのやったことは悪いことだけど、こういう場合は別にやってもいいと思う。	1
		31	犯罪はいいじゃない、マイクを助けるためなら仕方がないと思う。	1
		32	助けられない方がジョーンズさんが車を取ったよりも罪が大きいと思う。	1
		33	犯罪は悪いことだけど、時には法律を破ってしまうことがあってもいいと思う。	1
		34	車を奪わず息子が死んでしまったら、裁判では罪にならなくても、私から見たら人殺しの様に見えない。	1

(表7-2) 「生命尊重」の視点からの理由づけ (第二次の賛成)

内容項目	No.	記述内容	人数
3 1 2 生命尊重	28	犯罪であろうと息子の命に代えられるものはない。	2
	29	仕事も大事だが、人の命はもっと大事だ。	6
	30	「仕事」と「命」というふうに、のっかっていて重さが違う。	1
	31	仕事はやりなおしがきくが、命は失ったらもともにもどらない。	1
	32	命は何にでも代えられない。	2
	33	運転手の人は違う仕事が見つけれても、マイクの命は1つだ。	1
	34	自分が運転手だったら、やっぱり仕事は大切だけど、いくら他人の命でも助けてあげる。	1
	35	人の命より仕事が大切だなんて、よほど大切な仕事でない限り貸してあげる。	1
	36	1つの命でも守ってあげるのが人間としてすべきことだと思う。	1
	37	自分の車で人の命が救えたら、それだけですばらしいことだ。	1
	38	何にも代えられない命のことを車や仕事と同じ程度に考えているのなら、この人は人間失格だと思う。	1
	39	他の家の子でも命がこの一台で助かるんだと思ったら、貸してあげることくらいできるはず。	1
	40	車を貸さずにマイクが死んだら、間接的に人殺しをしたのと同じだ。	1
	41	運転手が法律に罰せられないなんておかしい。	1
	42	法律上罪になるとかいうけど法律のせいで一人が死んでしまったら法律とは何のためかと思う。1つの命を守るための法律なのかそれとも違うのか。	1
	43	ジョーンズさんも悪くはないとは言えないが、犯罪になるというのは絶対におかしい。息子を放っておいて死なせる方が犯罪となるべき。	1
	44	ジョーンズさんの行為は法律上ではいけないことだけど、法律を変えなければいけない場合もある。	1
45	命を助けるために暴力を加えることで犯罪となるなら法律を変えた方がよい。	1	

(表8-1) 「家族愛」の視点からの理由づけ (第一次の賛成)

内容項目	No.	記述内容	人数
4 1 5 家族愛	35	マイクが死んだら親としてすごく悲しい。	1
	36	息子の命をどうしても助けたかったんだから仕方がないと思う。	1
	37	子どもを助けるのは親として当たり前だ。	1
	38	ジョーンズさんは、もしマイクが死んでも安心して刑務所へ入っていられたらと思う。	1
	39	息子が助かったらすごくうれいし、助からなくても何もしないで助からないより絶対いいと思う。	1
	40	私もたぶんこんなことが起きたら、ジョーンズさんと同じ行動をとっていたと思う。	8
	41	たとえ逮捕されても息子の命が助かるなら、僕ならかわないと思う	1
	42	父親になったことがないからわからないが、子どもが死にかけているのに冷静になるのは無理だ。	1
	43	息子の命が危なくて1分1秒をあらそうことだからジョーンズさんも相当あせっててそんなことをしたのだと思う。	2
	44	緊急なことだから止むを得ないと思う。この状況でジョーンズ氏は冷静な判断もできない。	1
	45	息子のためなら罪を犯してでも助けてやりたい。息子が死んでいくのが見たくない。	1
	46	自分の息子を見殺しにはできない。	1
	47	もし盗まずマイクが死んだら、自分が見殺しにしてしまったと思ひ、すごく悔しい。	1
	48	ジョーンズさんはマイクを救うために自分は犯罪者となることも覚悟したのだ。	2
	49	父親なんだし、自分が犯罪を犯すことくらい怖くないだろう。	1
	50	愛する人のために最善の行動だ。	1
	51	ジョーンズさんはこの行動をしなかつたら後悔すると思う。	1
52	ジョーンズさんがやったことはすごくいけないことだけど、マイクがもし助かったら後悔しないと思う。	2	
53	もしここでマイクを助けられなかったら、きっと後悔するに違いない	1	
54	ジョーンズさんが車を盗んでマイクを助けたらマイクは感謝すると思う。(犯罪を犯してまで息子を助けようとしたのだから。)	1	

(表8-2) 「家族愛」の視点からの理由づけ (第二次の賛成)

内容項目	No.	記述内容	人数
4 1 5 家族愛	46	親として当然のことだ。	2
	47	息子の命が危ないし、さらに車がないなら、罪でも何でも犯す。	1
	48	親なら子どもの命を心配するのは、自分の命より心配すると思う。	1
	49	マイクは暴行や窃盗などを犯してまで助けてくれた父に対して感謝して一生懸命頑張って生きていくと思う。	2
	50	逮捕されてもマイクや妻は感謝する。	1
	51	捕まってもこの家族は父親のことを誇りに思う。	1
	52	僕がこの立場だったらそうしていると思う。	2
	53	マイクが助かったら悔いは残らないだろう。	1
	54	こういうことで捕まっても、恥というよりはいい方だ。	1
	55	息子の命を助けるためにしたことだから、法律を破って捕まったとしても後悔しないだろう。	3
	56	マイクが死んでもできる限りのことをしたんだから捕まっても後悔しない。	1
	57	親の不注意でマイクが怪我をしたが、その分逮捕される覚悟でマイクを助けたので、マイクへは十分つづくなった。	1

(表9-1) 「道徳の内容項目」別の理由づけ (第一次の反対)

内容項目	No.	記述内容	人数
1-3 自 他 の 義 務 ・ 2 権 利 尊 重 法 律 遵 守 4 1 5 家族愛	1	マイクが怪我をしたのは親の不注意だ。	1
	2	殴られて車を盗まれた運転手はかわいそうだ。	1
	3	打ち合せとかで車がいったら、運転手には悪いと思う。	1
	4	運転手の人にとっては、何の罪もないのに殴られたりしてかわいそうだし、腹が立つと思う。	1
	5	大切な仕事があるので止まっていたのに勝手に盗られるなんておかしい。	1
	6	仕事の打ち合せに遅れて首にでもさされたら、運転手の生きる道がなくなるかも知れない。	1
	7	打ち合せで運転手のこれからの人生が決まるならともかく・・・	1
	8	人の命がかかっているとはいえない。赤の他人なんだし大切な仕事をつぶすわけにはいかないと思う。	1
	9	運転手にも大事な仕事があるんだから、運転手の意見も尊重すべきだ	1
	10	車を貸す貸さないは運転手の権利だ。	1
	11	いくら命がかかっているにしても、この車には運転手の所有権がある。	2
	12	ジョーンズさんは甘すぎると思う。もっと頼んでから殴るべき。	1
	13	運転手は他人の立場に立って物事を考えていないのはだめだと言って説得して車を借りたらよかったかも知れない。	1
	14	自分の子どもの命も大切だけど、相手のことももっと考えるべきだ。	1
	15	ジョーンズさんも殴ってしまったのはいけないけど・・・	1
	16	ジョーンズさんのやり方も悪いかも知れないが・・・	1
	17	運転手を殴って車から降ろさなくてもいいような気がする。	1
	18	ジョーンズさんが殴ったことがかかるとひっかかる。	1
	19	ジョーンズさんもいくら息子の命を助けたいかたといつて、他人を傷つけるというところは、それは結局仕事のためにマイクを病院に連れて行かなかったことと一緒に。だから完全に賛成ではない。	1
	20	いくらマイクを助けたくても、人を車から引きずり出しなくつづけるのはだめなことだと思います。	1
	21	車を奪ったのと暴力をふるったのはいけない。	2
	22	ジョーンズさんの行動はやっぱり犯罪だ。	2
	23	車を盗んだり暴行するというのは、法律に反するからだめだ。	1
24	法律でいけないことになっている。	1	
25	マイクが助かってジョーンズさんが逮捕されているんだから、マイクは父親がいなくて寂しく思うだろう。	1	
26	本当にそんなことをして妻とマイクは喜ぶのかなと思う。ジョーンズさんが逮捕されたら、せつなく助かったマイクと妻はとても寂しくつらいだろう。マイクと妻は犯罪者の家族として他人に冷たい目で見られるから。	1	

(表9-2) 「道徳の内容項目」別の理由づけ (第二次の反対)

内容項目	No.	記述内容	人数
1-3 責任	1	マイクが怪我をしたのは親の不注意だ。	2
	2	自分の責任を周りに人や物にあたるのはいけない。	1
自 他 の 義 務 ・ 1 2 権 利 尊 重 法 律 遵 守 4-5 家族愛	3	運転手だって悪い人ではないだろう。	1
	4	運転手も助けたい気持ちはあって迷って迷って出した結論で仕方がないと思う。	1
	5	運転手を責めることもできない。	1
	6	運転手にも自分なりの理由があるのに、それを無視して悪者あつかいするのは間違っている。	1
	7	運転手の意見、所有権も尊重してあげべきだ。	2
	8	運転手にも所有権はあるが・・・	4
	9	ジョーンズさんも命がかかっているからといって、人を傷つけてまでその行為をするのは、結局仕事のために車を貸さなかった運転手と同じになる所がある。	1
	10	ジョーンズさんも暴力をふるうのはいけないけど・・・	1
	11	ジョーンズさんの行動に賛成ではないんだが・・・	1
	12	法律に反することはいけない。それを守るぎりぎりの行動を取って責任を持たなければいけない。	1
13	ジョーンズさんが逮捕されたら、いなくなるだけでなく他の人から白い目で見られる。マイクと妻はさみしくつらい思いをする。	1	

(道徳資料) 「この子のために」

この話は、傷害事件を起こしたジョーンズ氏の裁判の記録に基づいている。下町の裏通りに向かって古びた5階建てのアパートが並んでいる。日曜の朝は表通りと違って、裏通りには車の影は殆どなく、ときおり、遠くの方で子どもたちの声が聞こえてくる。突然、その静けさを突き破るかのよう、ただならぬ悲鳴がこたえた。「ぎゃー! 痛いー!」息子のマイクが、部屋を走り回って遊んでいるうち、足をとられて、暖房の柵に胸に大怪我をした。流れ出る血のため、着ている服もズボンも靴も見ると赤に染まった。マイクは泣き叫んで、ついに気を失ってしまった。両親は驚き、とりわけ母親はマイクは死んだものと思ひ、取り乱し、おろおろと泣き出した。父親のジョーンズ、すぐ救急車を呼ぶよう電話した。しかし、あいく救急車を交通事故の処理のためにではらっており、少なくとも30分は待たされると告げられた。救急車を待つよりタクシーの方が病院に早く連れて行けると考えた彼は、マイクを抱きかかえ急いで階段を駆け下り、表へ出てタクシーをひらおうとした。しかし、運悪くタクシーは走っておらず、マイクの出血はますますひどくなるばかりだ。そのとき、父親は通りの向こう側の路肩で止まっている車に気がついた。彼はマイクを抱いたまま、その車にかけより、運転手の男に病院に連れて行ってくれるように頼んだ。しかし、『大切な仕事の打ち合わせで人を待っているところだから、助けたがそれはできない。』と、その男は断った。そこで、『それなら車を貸してもらえないか』と言うと、その男は『見ず知らずのあなたに大事な車を貸すわけにはいかない。』と答えた。迷ったあげく、ジョーンズは、妻にマイクに引き渡すと、いきなりその男を車から引きずり出し、抵抗する男をおもいきり殴りつけた。そしてキーを取り上げて、車を運転して病院に息子をかつぎ込んだ。殴られた男は、その後、警官を連れて病院まで追いかけてきた。警官はジョーンズを車の窃盗と暴行の罪で逮捕したのである。

出典：荒木紀幸編 1980 「モラルジレンマ資料と授業展開」中学校編 23-24頁

判断・理由づけカード

○ジョーンズさんの取った行為に賛成ですか、反対ですか

(A) 賛成 (B) 反対 (C) まよっている

○どうして、そう思うのですか。その理由を書いて下さい。
